

編集後記

(55巻 第9号 2009年9月)

ついに政権交代となった。おそらく平成21年8月30日は歴史的な日になると思われる。小選挙区制度では、このような激変が起こる可能性があるとは知っていたが、保守的な日本では起こらないだろうと思っていた。しかし実際に起こってしまった。それだけ国民全体が感じていた閉塞感が大きかったのだと思う。やはり、経済中心の行きすぎた市場原理主義と医療や福祉の切り捨て政策は、農耕民族として仲良く慎ましく生きてきた日本人には無理があったように思う。

さて政権が交代して日本はどうなるのだろう。景気回復が何よりの最優先課題とされ、経済発展こそが是とされているように思えるが、経済が停滞して世界の二流国になることが、それほど問題なのだろうか(世界の調査結果をみると、幸福感や住みやすさなどでは、すでに二流あるいは三流国になっている)。環境や医療・福祉を大切にす二流国を目指す転換点として良い機会ではないかと思うのだが。

(小川 修)